



●市内の出来事や、頑張っている皆さんの姿を紹介するコーナーです。



「ふれあいトーク」を3年ぶりに開催
 ●8月7日 燕市役所

コロナ禍で3年ぶりの開催となった「ふれあいトーク」。初めて動画のライブ配信も行いました。右の二次元コードから9月末まで視聴できます。→



「つばめの農産物」を食べて応援しよう！
 ●8月8日 市内外参加店舗

昨年2万通を超える応募があった「つばめ食べて応援キャンペーン」を今年も開催中。10月末までに燕市産の農産物を買って、食べて、豪華な商品をゲットしよう！



マルシェで地域に笑顔と元気を
 ●8月6日 吉田いちび通り

夏の日差しの下、マルシェが賑わいを見せました。幅広い年代が訪れた会場では、楽しげな話し声が響き、アットホームな空間の中いちび通りに笑顔が溢れました。



燕市マンホールカード第4弾配布を開始！
 ●8月6日 道の駅国上

配布開始日には、多くの人がマンホールカードを求めて訪れました。通水100周年を迎えた大河津分水路や桜並木が描かれたカードは道の駅国上で配付中です。

今月のつばめっ子

●元気なつばめの子どもの様子をお届けします！



プールで暑さを吹き飛ばせ！

●8月9日 燕こども園

暑い日が続いた8月。子どもたちにとっては絶好のプール日和でした。水着に着替えて、いざ水の中へ。「つめた〜い」「気持ちいい〜」など賑やかな声が園庭に響き渡りました。フラフープくぐりも上手にできました。1・2歳児のお友だちは水遊びをして楽しみました。



なるほど！長善館

長善館史料館 ☎0256・93・5400

●1833年に創設された私塾「長善館」。革新的な教育を行い、約80年の運営で約1000人の塾生を輩出しました。



▲「豹軒詩鈔」(左)と「退休集」(右)の2編で8,700首が収録されている。



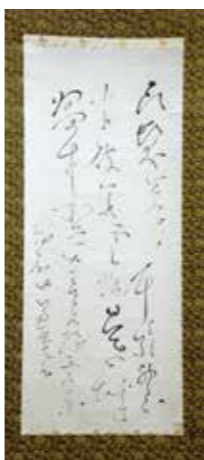
▶虎雄氏(燕市名誉市民) 1878(明治11)年〜1963(昭和38)年

1961(昭和36)年に文化勲章を受章した鈴木虎雄氏は文臺の孫で、8歳で長善館に入門し、父惕軒に学んでいます。上京後の東京府尋常中学で杜甫の詩に出会い、寝食を忘れるほど中国文学に没頭していきました。10歳から生涯に詠んだ漢詩は一万首を超えるとされます。「英文学をやる人が英語の詩を作らない、作って見なければ原作者の気持ちは分かりませんよ」と語られたこともあり、学問への飽くなき情熱と詩を作るという実践は、紛れもなく長善館の教えにほかなりません。

よもやま話

分水良寛史料館 ☎0256・97・2428 (月曜日休館)
 ■入館料 大人300円 学生200円 小中学生100円
 ※団体割引あり

ある日、リュックを背負った女性がふらりと史料館に立ち寄った。その女性が時間をかけて館内を見学した後に、声かけをしてみた。すると、東京のT経済大学の教授と名乗り、実は学長の友人が最近良寛の著書を出版し、二人で対談することになったので、良寛について事前調査をしてほしいと頼まれて来館したとのこと。そして、笑いながら、もうひとつ目的があって、梓俳句会の吟行旅行の下見を兼ねているとのこと。一年後、その吟行旅行で約束どおり十人ほどが当館を訪れ、楽しく談笑した。その翌年、一通の手紙がその教授から届き、「あるところから屏風に貼り交ぜの何点かの良寛の書の判読を依頼されたが、コロナ禍のテレワークで研究室が利用できないので、こちらで調べてもらえないか」とのこと。どれも良寛の著名な漢詩なので即刻快諾した。そのうちの一点を訓読で紹介すると「頭髮蓬蓬耳卓朔 衲衣半ば破れて雲烟の若し 日暮城頭帰来の道 兒童相擁す西又東」。



▲「頭髪蓬蓬...」と綴られている良寛の書

そして今年4月、その教授の最初の単著「室町期浄土僧聖総の談義と説話」が次のような手紙が添えられて送られてきた。「分水の美しい風光を再び目にしたいと存じております」



大河津分水コラム
 次の100年に向けて
 100年前と今ー写真で見ると
 大河津分水ー



▲①洗堰
 1915(大正4)年に撮影された建設中の洗堰と現在の様子。1960(昭和35)年に嵩上げされ、通水当時より約1.5m高くなったものの、堰のフォルムやコンクリートの質感などが100年前を感じる事ができます。約80年にわたり私たちの暮らしを支えてきた洗堰は、登録有形文化財となり遺されているほか、堰の下をくぐり抜けることもできます。

②第二床固付近
 古い写真(下の右側)は1914(大正3)年頃に撮影されたもので、大型機械のエキスカベーターをはじめ、働いている人たちの確認することができます。現在は、大河津分水路の川幅を広げる「令和の大改修」を進めており、にとこみえくる館の裏手にある「現場チャレンジコース」高台から工事の様子を見渡すことができます。



地域おこし協力隊の奮闘日記 vol.54



初めまして、今年7月から地域おこし協力隊として燕市観光協会に勤務しています、井口大史です。

東京から燕市に移住してきました。地元では桜が有名なのですが、燕市も桜の木が多く、通ずるのを感じます。春が待ち遠しいです。幼少の頃から燕には父の仕事や所属していたサッカーチームの関係で訪れており、その影響で燕の職人の文化に興味を沸き、第二の故郷にするべく、このたびやってきました。

これから地域おこし協力隊として、食・産業・観光の魅力が詰まった燕の情報について、燕市観光協会のSNSを中心に発信していきます。

最近、夜にランニングしたいと思っています。どなたか、夜道でも走りやすい場所や方法を教えてくれると、ありがたいです！



燕市地域おこし協力隊 井口大史